

第13回日本予防医学会学術総会

著者	中村 裕之
雑誌名	金沢大学十全医学会雑誌 = Journal of the Juzen Medical Society
巻号	124
号	2
ページ	45-45
発行年	2015-07-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/43434

『学会開催報告』

第13回日本予防医学会学術総会

The 13th Annual Meeting of Japanese Society of Preventive Medicine

金沢大学医薬保健研究域医学系環境生態医学・公衆衛生学
中 村 裕 之

平成27年6月20日(土)～21日(日)にフレンドパーク石川(石川県勤労者福祉文化会館)において、第13回日本予防医学会学術総会が開催されました。

日本予防医学会は、主に代替医療を含む包括的な予防医学・予防医療の普及のためのシステムの構築と、疾病予防や、慢性疾患管理において、「栄養、運動、メンタルヘルス等幅広い領域」で専門的、かつ、きめ細やかな個人指導を提供できる人材育成を目指している学会です。

日本予防医学会学術総会は、1年に1度、公衆衛生学、予防医学、疫学、および、運動や栄養、免疫、メンタルヘルスの領域の医師、保健師、看護師、産業カウンセラー、行政関係者、大学や研究機関や企業の研究者など幅広い分野の医薬保健関係者が全国から集い、「予防医学に関する研究者がその研究成果の発表、知識の交換・普及、情報等の提供を行い、視界の発展に寄与すること」を目的に、研究発表・討論を行う会です。

第13回日本予防医学会学術総会では、「地方から新しい予防医学を創生する」をメインテーマに掲げ、更なる予防医学の発展を社会にアピールするプログラムを企画し、特別講演、4つのシンポジウムを行いました。特別講演、シンポジウムでは、一線で活躍されている様々な立場の講師をお招きし、多方面から予防医学に関する最先端のお話を伺うことができました。特別講演とシンポジウムは、日本医師会生涯教育制度の単位として認定されました。

特別講演では、金沢大学の櫻井武教授に「睡眠覚醒制御機構におけるオレキシン産生ニューロンの役割」についてお話しいただきました。

金沢大学の篁俊成教授に企画していただいたシンポジウム1「糖尿病に向けた地方からの挑戦」では、糖尿病研究/医療の目指すところについて、5名の先生にご講演いただきました。篁教授に「基礎・臨床研究と地域連携で挑む糖尿病医療」について、金沢医科大学の櫻井勝准教授に「追跡コホート研究から読み解く糖尿病予防のためのライフスタイル」について、徳島大学糖尿病臨床・研究開発センターの松久宗英センター長に「地域の課題として糖尿病に取り組むアカデミズム」について、石川県医師会の三輪梅夫理事には「石川県における糖尿病対策の現状と課題」について、金沢赤十字病院の西村泰行副院長には「糖尿病診療の質向上に向けた地域連携の新展開」について、お話しいただきました。

社会での発達障害に対する認識が広がっています。発達障害は進学や就職などの環境変化に伴い、そこでの不適応から適応障害や不安障害などの2次障害を併発することが多いため、社会での正しい理解と周囲の対応がその予防には必須です。そこで、筑波大学の松崎一葉教授に、シンポジウム2「職場の発達障害の理解と対応」を企画していただき、東京えびすさまクリニックの山登敬之院長に「大人の発達障害の理解と援助」について、株式会社リコーの統括産業医である森田哲也先生に「大人の発達障害への職場での対応」について、お話しいただきました。

シンポジウム3「住まいからみた文化と健康－地方から新しい予防医学を創生する－」は、報告者が企画いたしました。現在、厚生労働省が進めている地域包括ケアシステム(医療と介護の連携)の構築をはじめ、町づく

りや伝統文化と予防医学という観点から5名の先生にご講演いただきました。金沢工業大学の永野紳一郎教授に「外気は安全なのか」について、千葉大学の花里真道准教授に「健康なまちづくりを目指して：予防医学と建築・都市デザインの連携」について、公益社団法人全国老人保健施設協会の本間達也副会長に「マンツーマンの医療からゾーンディフェンスの地域貢献」について、金沢大学の宇野文夫特任教授に「超高齢化社会・奥能登における暮らしと文化」について、法政大学の水野雅男教授に「健全なコミュニティを創出する住まいのあり方」について、お話しいただきました。

中国におけるPM2.5などによる深刻な大気汚染の発生を受けて、日本のPM2.5濃度の上昇や、日本人の呼吸器系疾患や循環器疾患などのリスクが上昇する健康影響が懸念されています。そこで、岡山大学の荻野景規教授に、シンポジウム「PM2.5の環境問題の現状と課題」を企画していただきました。PM2.5について、モニタリングから健康影響まで、何が分かっている何が分かっているのかを5名の先生にご講演いただきました。また、市民のみならずも興味がある内容かと思いましたが、市民公開シンポジウムとして開催しました。金沢大学の早川和一教授に「多環芳香族炭化水素類からPM2.5問題を考える」について、国立環境研究所の大原利真フェローに「PM2.5汚染の実態と今後の課題」について、岡山大学の久保正幸助教に「PM2.5のタンパク質を介した生体影響」について、長崎大学の尾長谷靖准教授に「喘息患者におけるPM2.5の短期的影響に関する観察研究」について、お話しいただきました。報告者も「黄砂を含む環境中化学物質の呼吸器疾患への影響に対するゼロ次予防」について、お話ししました。

ランチョンセミナーでは、国際レインボー療法学会の小野田順亮会長に「睡眠障害を癒す色の力」について、お話しいただきました。

一般講演では、「食品・栄養」、「健康・高齢者保健」、「疾患・生活習慣」について、21題の発表がありました。全国から集まった約130名の方に本学術総会へご参加いただき、学術総会期間中、予防医学に関する活発な討論を行うことができました。

最後になりましたが、本学術総会を開催するにあたりご協力いただきました企業や施設に、また、ご後援いただきました金沢大学十全医学会、石川県、金沢市、石川県医師会、金沢市医師会、北陸中日新聞に、心より御礼申し上げます。

